

慈明院寺報六月号

七福神



毎年六月に大黒天のご尊像にお集まり頂いて、『大黒天里帰り法会』を勤めて^{つと}いる。たくさんの大黒さんがお寺に集まるのだが、時々その中に布袋さんや^{えびす}夷さんなど・・・縁起の^{えんぎ}良い神さまがご一緒になる。どなたでも大歓迎です。

世に七福神と云われる神仏がある。大黒天・夷神・毘沙門天・弁財天・布袋和尚・福祿寿・寿老人、これらを特に縁起の良い福の神として、まとめて祭るのが七福神の信仰である。宝船や熊手に描かれた姿が馴染み深い。

この七福神は『仁王経』の「七難即滅七福即生」という教えに因んだとも伝えられ、寿命・有福・人望・清廉・愛敬・威光・大量という幸多き事を七つ意味する。それを天海僧正が徳川家康を通じて狩野派の画家に、七福神を描かせたのがはじまりとも云われている。

しかし江戸時代以前にも、七福神らしい絵画やそれにまつわる文献も存在し^{いままなぞ}未だに謎が多い。七福神それぞれの出自も違えば、国籍も違う。まさに仏教・神道・道教のオールスターといった所か。こんな歌も残されている。

「ながきよのとをのねぶりのみなめさめなみのりふねのおとのよきかな」
これは縁起物の七福神宝船の図に添えられた歌である。実は上から読んでも下から読んでも同じ仮名使いになる。目が覚めるような福が宝船に乗りやってきたぞというお目出度い歌である。

では七福の反対・・・七難とは？^{きやうてん}経典によって様々な災厄（火・水・風の災害）^{さいがい}などが数えられるが、人衆疾疫難という災厄もあるそうだ。しっかりと護摩供養を勤めて、疫病のない平穏な日常に戻る事を祈っている。住職 合掌

大黒天里帰り法会・参拝についてのお知らせ

※ご承知の通り、新型コロナウイルス対策の緊急事態宣言が五月十二日に福岡県では発出されました。引き続き、不要不急の外出を控えるなど新型コロナウイルス感染症と向き合った生活様式が必要とされる状況です。

※このような状況ではありますが、密を避けてマスク着用、飲食をしないなどの対策の有効性も明らかになってきました。そこで今年は『大黒天里帰り法会』を希望者のみの少数参拝とさせていただきます。六月六日に住職が護摩供養にて、大黒様をお浄めさせていただきます。

※宜しければ、お祀りされている大黒天のご尊像をお寺までご持参下さい。六日に住職が護摩供養の炎にてお浄め致します。また、ご希望があれば可能な限り、大黒様のご尊像を皆様のご自宅までお迎えに伺いますのでお電話でご連絡頂ければ幸甚です。詳しくは別紙をご参照下さい。

住職の独り言

毎朝、本堂の台所でゴマ豆腐を作っている。先代の住職である父の病気が重くなってから、「何か自分でもやらなきゃな・・・」と不安に追い立てられ副業として始めた。丸六年が経過して、そうざい製造業の許可も無事更新し今日に至る。最近^{すんごも}は巣籠り需要で少しだけ売り上げが良い。有り難い事である。日々できる事をやるしかない。ゴマ豆腐を作りつつ、そう思っている。



慈明院

〒八一一一三 福岡市早良区大字西二三四一（二〇）

TEL (〇九二) 八〇四・四五七〇 FAX (〇九二) 八〇四・四六〇五

住職・吉住大慈 携帯電話〇九〇・(五二八一)・七四九四